

三橋鷹女全集

第一卷

三橋鷹女全集

第一卷

三橋鷹女全集 第一卷

一九八九年四月二十日印刷

一九八九年五月一日発行

著 者 三橋鷹女

発行者 下野 博

発行所 株式会社立風書房

〒141 東京都品川区東五反田三―六―一八

電話 〇三(四四七)一一九一 (営業)

〇三(四四一)八二三一 (出版部)

振 替 東京五―七四四九三

印刷所 図書印刷株式会社

定価 八九〇〇円 (本体八六四一円) 分売不可

乱丁・落丁本は、直接小社通信販売部へお送りください。
小社送料負担でおとりかえいたします。

©T. Mitsuhashi Printed in Japan 1989

無断複製 (コピー) を禁ず。

ISBN4-651-60040-9

三橋鷹女全集第一卷・目次

〈句集篇〉

向日葵

九

魚の鰭

禿

白骨

一四

羊齒地獄

三二

櫛

三六

『櫛』以後

三五

〈エッセイ篇〉

無題

三七

蜷

三九

ひとりごと

三〇

くわした曼陀羅

三一

むらさき饑法

三七

蠶

三九

紫陽花

三三

鴟

三七

最後の訪問

三五

病床録

三六

*

解題(中村宛子)

三四

三橋鷹女全集

第一卷

〔著作篇〕

装幀

中島かほる

装画

菊寿堂いせ辰

大名千代紙

「伏縄目章」

句
集
篇

向日葵

自序

過去二十年の年月を俳句に打込んで、苦しみ又愉しみつづけて来たことを思へば、その時に於ける作品は貧しくとも、履き古したわらぢのやうには捨てきれないものがある。とは云へ限られた頁の中に到底集録しきれるものではないので、古い頃のものは私の最初の句集である事を意味づける為に、その少数を取り入れるはかはすべて捨て去ることとして、活字になつたもの二千句に近い中から自選し、これに最近の作で未発表のものを択び加へた。『ひまはり』の部に於ける作品の過半数がこれである。

ささやかなこの句集を世におくり出すことによつて、さまざまの足跡を刻みつづけてきた来し方に別れを告げ、さうして明日への心構へを新たに強めたいと思ふ。真夏の日を逐うて咲くひたむきな向日葵の花を好もしく思ひ、句集は「向日葵」と名付けた。

昭和十五年盛夏

東 鷹女

花

笠

(大正十三年—昭和三年)

すみれ摘むさみしき性を知られけり

蝶とべり飛べよとおもふ掌の堇

折りあげて一つは淋し紙雛

万燈がゆく花笠がゆく遠太鼓

手花火のしだれ柳となりて消ぬ

踊りぬけて背にひえびえと松の幹

たそがれて人ごゑを聞く案山子かな

一つとなりし蟲を放ちにゆきにけり

吾が額に糞して高し秋の鳥

惜春やことば少なき夫とゐて

風ふね (昭和四年—九年)

ふところの菜の花雛はしほみけり

霜折れの道のべを行くソフトかな

ひそやかに柊花ちる霜日和

夕月やあぎと連ねて鯉幟